

授業科目名 (英文名)	化学工学プログラミング	科目区分 対象学生	
単位数	2.0	開講年次・ 学期	2年次・後期
担当教員	新船 幸二 柿部 剛史	所属	工学研究科
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>講義目的 本講義では、化学工学を含む理学・工学系分野において解析・制御用として一般的に用いられるC言語の基礎を習得することを目的とする。</p> <p>到達目標 (1) C言語の文法を正しく理解し、コンパイルとデバッグが行えること。(2) C言語のプログラムを解説し、その実行結果が予測できること。(3) C言語を用いて基礎的な数値計算が行えること。</p>		
講義内容・授業計画	<p>カリキュラムの中での位置付け、教育内容・方法 計算機による情報処理は様々な所で行われており、代表的なプログラミング言語であるC言語の基本をマスターすることは、エンジニアとして非常に重要である。また、プログラム作成には論理性が不可欠であるため、C言語を学ぶと同時に論理性の習得も意識していく。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. C言語の基礎 2. 入出力 3. 演算 4. 分岐 5. 繰り返し 6. 総合演習1 7. 配列 8. 文字型配列 9. 総合演習2 10. ポインタ 11. ポインタ演算 12. 関数(値渡し) 13. 関数(アドレス渡し) 14. ファイル処理 15. 総合演習3 		
テキスト	黒瀬能幸 監修・福田良之介 著：ANSI規格準拠 やさしく学べるC言語、森北出版株式会社		
参考文献			
成績評価の基準・方法	<p>成績評価の基準 C言語の基本文法を正しく理解し、基礎的な数値計算が行える者に単位を授与する。講義目的・到達目標に記載する能力の到達度に応じて、SからCの成績を授与する。</p> <p>成績評価の方法 演習・課題を基準として、受講態度(欠席、遅刻、積極性など)を含めて総合的に評価する。</p>		
履修上の注意・履修要件	欠席、遅刻をしないこと。 病欠の場合は事前に教員に連絡し、後日、病院の診断書や領収書などを提出すること。		
実践的教育	該当しない		

